

どなたでも自由に参加できます。  
一歩でも二歩でも参加してください。

## 第19回 抗議デモ・学習会

# 11月21日(土)

- 抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 烏山区民センター広場
- 学習会 午後2:30開会 烏山区民センターホール

### 講演 カルトにはまる大学生 -その背景と対策-

1995年、日本中を震撼させたオウム真理教による無差別テロ行為は、「カルト集団」の恐怖を目の当たりにした。あれから14年経過した現在も、カルトがなくなることはない。

今回の講演は、オウム事件以後、特に大学生をターゲットとしている宗教カルト団体について、その被害の実態と対策の現状、今後の課題などを具体的にお話ししていただきます。



#### ●講師：川島堅二氏

略歴 1958年東京生まれ。東京大学大学院人文社会学研究科博士課程単位取得(宗教学・宗教史学専攻)、文学博士。恵泉女学園大学人間社会学部教授、日本脱カルト協会正会員、全国カルト対策大学ネットワーク発起人。

大学生をターゲットにした新宗教やカルト宗教の動向に詳しく、脱会支援活動にも従事している。

主催：烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会

共催：世田谷区

オウム  
対策  
住民  
協議  
会  
ニ  
ュ  
ー  
ス

烏山地域オウム  
真理教(現アレフ)  
対策住民協議会

### カルトが若者を取り込んで行く【投稿】

「カルト」と呼ばれる、オウム真理教、統一教会、摂理、この他にも少なくないカルト集団が、私たちの身近に存在します。この現実を私なりに考えてみました。

私は烏山地域で、オウム真理教(アレフ・ひかりの輪)の反対運動を何年か経験しましたが、宗教や仏教、ましてやカルトについてもそれ程知識はありません。

今から20数年前になるでしょうが、私の家に「野の花会」と名乗る男女二人組が「福祉施設に寄付をする」と言つて、キーホルダーとマスコット人形を販売にきました。私は新聞紙上でその会の名称を知っていたので、暫く話を聞いた後で「統一教会の人ですね?」と問いかけました。彼らの反応は、「マニュアルどおりと思われる言葉で「私たちは統一教会ではない」との内容を、能面のような顔で話していた事を記憶しています。それは上からの強い指示で動く人形のように、自身の行為に、信念のようなものが感じられなかったのが救いでした。しかし未来ある若者が「なぜ、こんな集団に騙されるのか」くやししい思いでした。

その後、その集団は一面職もない男女信者が、教祖の指示で結ばれる集団結婚式、高額の金額でインチキな壺を買わせる霊感商法と、社会的には許せない行為へとエスカレートしていきました。その後、1984年に生まれたひとつのカルト教団が1995年には、無差別テロ「地下鉄サリン事件」を引き起こすと、最悪の方向へと進んでいきました。それから14年間経過した現在でも、学生を中心に若者を取り込み、新たなカルト集団が増殖しているようです。私たちはオウム真理教が起こしたテロ行為の怖さ、残酷さのみに目を奪われ、他のカルト集団の本質や、欺瞞性を学ぶことに、怠慢だったような気がします。信仰心がそれ程強くない日本は、カルトにとつては、またとない温床のようです。カルト集団により内容の違いがあったとしても、カルトそのものの怖さは共通点があります。若者をカルトから守るのは、私たちが大人の役割です。その活動は、オウム真理教を「解散・解体」へと追い込んでいく事にも、繋がるものと確信します。

(R・M)

## 「団体規制法の存続・強化を求める署名」活動経過報告

皆様のご協力により、観察処分は今年2月より、三度目の期間更新がなされました。それと同じように「団体規制法」の見直しが5年毎に行われています。その時期が今年12月に迫っています。私たちは観察処分期間更新に引き続き、「団体規制法」の存続・強化を求める署名活動を行ってきました。

昨年度国へ提出したものを含めて、現在50,000筆の署名が集まっています。11月には国への要請をおこなう予定です。あと1ヶ月余り、署名にご協力ください。オウム真理教（アレフ、ひかりの輪）解散・解体を目的に活動をしている、私たちへの皆様のご協力をいただけますよう、よろしく願いいたします。

## 坂本弁護士一家殺害事件が繋ぐ人の愛

オウム真理教による、坂本堤弁護士一家殺害事件から、20年が経過した。事件後、警察は、オウム真理教への捜査をなぜかためらった。坂本さん一家の遺体発見は、事件後6年になる。今回は坂本堤さんの妻都子さんと、遺体が発見された地元の方との、慰霊碑を巡っての、人との繋がり記録になります。

### 坂本堤弁護士一家殺害事件

1989年11月4日未明、教団信者数名は、オウム真理教元教祖、麻原彰晃（本名松本智津夫）の「ポアしろ」の指示を受け、坂本宅に侵入、堤さん、都子さんを絞殺、長男龍彦ちゃん（当時1歳3ヶ月）の口を塞ぎ殺害した。都子さんは自身が殺されかかっているにも拘わらず「子供だけは助けて」と、実行犯に懇願したが叶わなかった。遺



慰霊柱・慰霊碑周辺の草刈、清掃をする山本清作さん

体は富山、新潟、長野三県に別々に埋められた。坂本弁護士は、オウム真理教から、子供たちを取り返したいと願う親たちから相談を受け「オウム真理教被害者の会」を結成、活動を行っていた。それに恨みを持つ、身勝手な犯行だった。

### 神奈川県警の捜査は

その後、オウム真理教の幹部がつける、プルシャ（パッチ）が坂本宅で発見されたり、県警は「長男は、長野

県大町市日向山、山中に埋めてある」との匿名の手紙と地図（犯人の一人が送った事が後に判明）を入手していた。オウム真理教犯人説が、にわかには浮上していたにも拘わらず、オウム真理教への捜査は手付かずだった。しかも、県警は「坂本は借金を抱えて失踪した」など、事実無根の噂を流し続け、自身の捜査の怠慢を正当化してきた。遺体が発見されるのは、それから6年後の、地下鉄サリン事件で信者が逮捕され、その自供から場所が特定された。坂本弁護士一家殺害時、県警がオウム真理教への徹底捜査をしていれば、その後の事件も未然に防げた可能性は残される。

### 慰霊碑を守り続けた山本清作さん

富山県、立山連峰の僧ヶ岳（1855メートル）の麓、東蔵地区から6kmに都子さんの両親、大山友之さんとやいさんが建てた慰霊柱と「坂本弁護士と家族を救う全国弁護士の会」の慰霊碑がある。都子さんが遺体で見つかった場所だ。大山さんは、地権者がいるとは知らずに、慰霊柱を建ててしまった。ところが、地権者の山本清作さんは、謝罪に訪れた大山さんを快く迎え、労いの言葉をかけた。山本さんは、今でも慰霊碑の清掃、草刈を続けている。「お互いもう80。でも、わあ（私）が元気な限り続けていく」と語っている。

### 都子さんの優しい人柄、合唱で伝える

一方、富山県魚津市では「都子さんメモリアル、愛とヒューマンのコンサート」が今年も開かれた。地元の人々は、生前の都子さんの、愛情溢れる様々な活動を聞き「社会を良くすると言う都子さんの強い思いを感じた」として、1999年から、毎年コンサートを開催してきた。大山さんは「魚津の人たちに我が子のように可愛がっていただき、感謝の気持ちでいっぱいです」と話す。志なかばで無残にも殺害された、堤さん都子さん。しかし、その生き方は多くの人々の感動を呼び起こし、二人の意志は、後世も語り継がれていくものと感じた。

（朝日新聞 8月24日夕刊より一部抜粋）

## 住民協議会活動報告

9月14日(月) 実行委員会

9月23日(水)～9月24日(木)「烏山神社秋まつり」で募金活動

9月28日(月)「協議会ニュース89号」初校正

10月5日(月)「協議会ニュース89号」再校正

10月7日(水)事務局会議

10月13日(火)「協議会ニュース89号」発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。